

一般質問

そこが聞きたい！

議員は、毎年3月、6月、9月、12月に開催される定例会で、市政全般に対し質問をすることができます。これを「一般質問」といいます。

今定例会では、16人が一般質問を行いました。ここに掲げたのは、その質問・答弁の大意で、質問者本人が執筆しています。

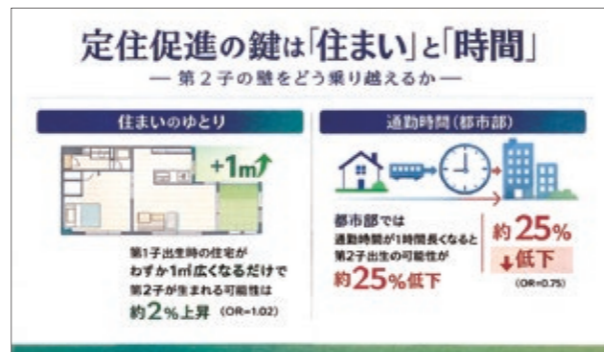
なお、各ページに掲載しているQRコードから、各議員の一般質問の録画配信映像をご覧ください。



選ばれるまち。質が高い定住施策は

Q 環境の限界が「第2子の壁」となり転出を招いている。「住む・育てる・働く」が途切れない環境整備が求められる中、若者世代の定住促進を目的に、戸田市宅地開発事業等指導条例が改正され50平方メートル以上のファミリー向け住戸を供給することが義務化された。ぜひ周知を。

A 広報戸田市や市ホームページに掲載したほか、建設業や不動産業などの業界団体にチラシを送付した。今後は「TocoToco」においても情報発信する。



「住まい広さ」と「時間」が鍵

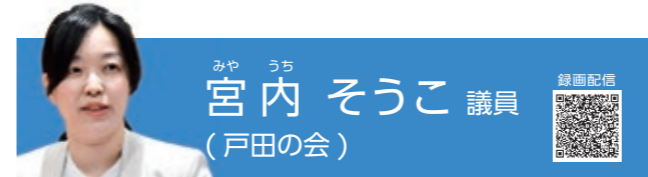
Q 第2子保育料無償が第2子の後押しになるのでは。

A 第2子無償化は多額の財政負担を伴う。近隣市の動向や有効性を分析し、調査・研究を行う。

Q 職場と居住地が近づくことで家族と過ごす時間を生み出すことができる。市内企業の人材確保にもつながる「若者奨学金返済サポート補助金」の概要と周知について伺う。

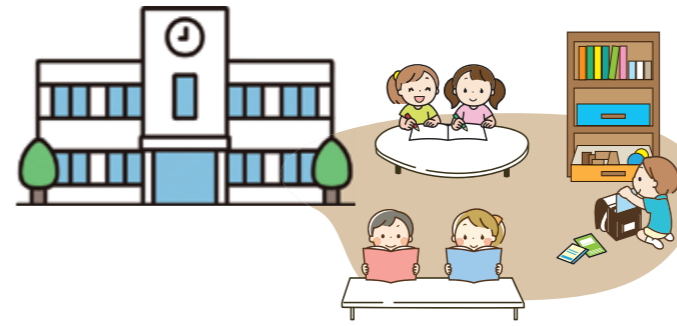
A 令和8年度より奨学金返済を補助する新制度を開始する。市内中小企業等に勤める40歳未満の市民を対象に月額1万円を最長5年間支援する。SNSや商工会等を通じて若者の就労と市内企業の人材確保につながるよう、対象者や企業へ広く周知に努めていく。

意見 奨学金返済補助金は昨年の一般質問から早期の予算化、対応に感謝する。住む、育てる、働く、のライフステージが途切れずつながることが定住の道筋。今回の施策を選ばれ続けるまちへの確かな第一歩とし、家計の安心と家族の時間を生む環境整備を官民一体で進めることを強く期待する。



登校前の「朝の子供の預かり」を

Q 親が子供よりも朝早く出勤する家庭では、小学1年生の子供が、1人で家の鍵をかけて登校している。こうした家庭のために、登校前に子供を学校で預かる「朝の居場所づくり事業」を始めては。



全国で広がる朝の子供の居場所づくり事業

A 今後の需要や社会情勢などを見極めながら実施の必要性について調査する。

スキマバイトにも対応できる学童を

Q 近年、子育て世代の間で増えている「スキマバイト」などの就労形態に対して、学童保育を利用できるようにして欲しい。

A 学童保育の一時保育の制度がある。

意見 現在の一時保育の制度では、当日の朝の予約ができず、空きがない可能性もある。スキマバイトなどの新しい就労形態に対応できるように学童の利用整備を。

ひとり親の自立・就労支援の強化を

Q 外国籍のひとり親の方に、日本語習得と就労支援を結びつけるサポート体制を。

A 国際交流協会につないで支援していく。

Q 「ひとり親の資格取得支援制度」の利用が促進されるよう、長期的な自立を見据えて、ひとり親の資格取得や就労支援の強化を。

A ひとり親に寄り添いながら支援を行う。

Q ひとり親の方にとって生活保護は大切なセーフティネットである。一方では、「生活保護をもらわずに生活したい」という方もおり、あつとわずかな経済支援で自立につながる。本市独自の家賃補助の設立を。

A 先進自治体の状況を見ながら研究していく。



ごみ回収業者への負担軽減対策

Q 本市の530運動は年4回実施、蕨市では6月と12月の年2回の実施となっている。収集体制への影響や業者の負担軽減の観点から、実施回数の在り方について検討することも一つの方策ではないか。

A 530運動の実施回数については、事業者の負担軽減の観点も踏まえ、見直しについて検討を進める。

意見 全国のごみ収集業界は深刻な人手不足が続いている。特に若年層の担い手の確保が難しい状況である。行政と委託業者が早急にごみ収集の負担軽減等について協議する場を設けるなど、今抱えている課題について早急に対応することを要望する。

市庁舎に対する考え方について

Q 本市も築50年以上経過しているのを受け、どのような事故が発生しても行政サービスが継続的に出来る庁舎へと、建て替えの計画等をすべきと考える。庁舎を建て替えるとどのようなメリットがあるか。

A 庁舎建て替えのメリットは、バリアフリー環境の充実など、来庁者の利便性が向上、災害発生時においても行政機能を継続する能力が高まることに加え、執務スペースや会議室の拡充、空調性能の向上、セキュリティ対策の強化など、快適で安全性の高い職場環境の実現などが挙げられる。

Q 近隣自治体における本庁舎の建て替え状況は。

A 戸田市庁舎と建築時期が近い、昭和40年代頃に建築された庁舎では、蕨市や川口市、草加市などが建て替えている。



建築から55年が経過した市庁舎